

トビロープ曳漁業技術特別研修

私達は、漁業後継者対策事業の一環として6月29日から7月5日までの7日間にわたって、鹿児島県与論町漁協においてトビロープ曳漁業技術の研修をいたしましたので、その概要を報告します。

(1) 研修者

金城与志雄（沖縄市漁業協同組合青年部）

与那嶺 強（ ）

(2) 研修期間

昭和59年6月29日～7月5日まで

(3) 研修場所

鹿児島県与論町漁業協同組合

(4) 研修項目及内容

与論方式のトビロープ曳漁具及び漁法の乗船研修

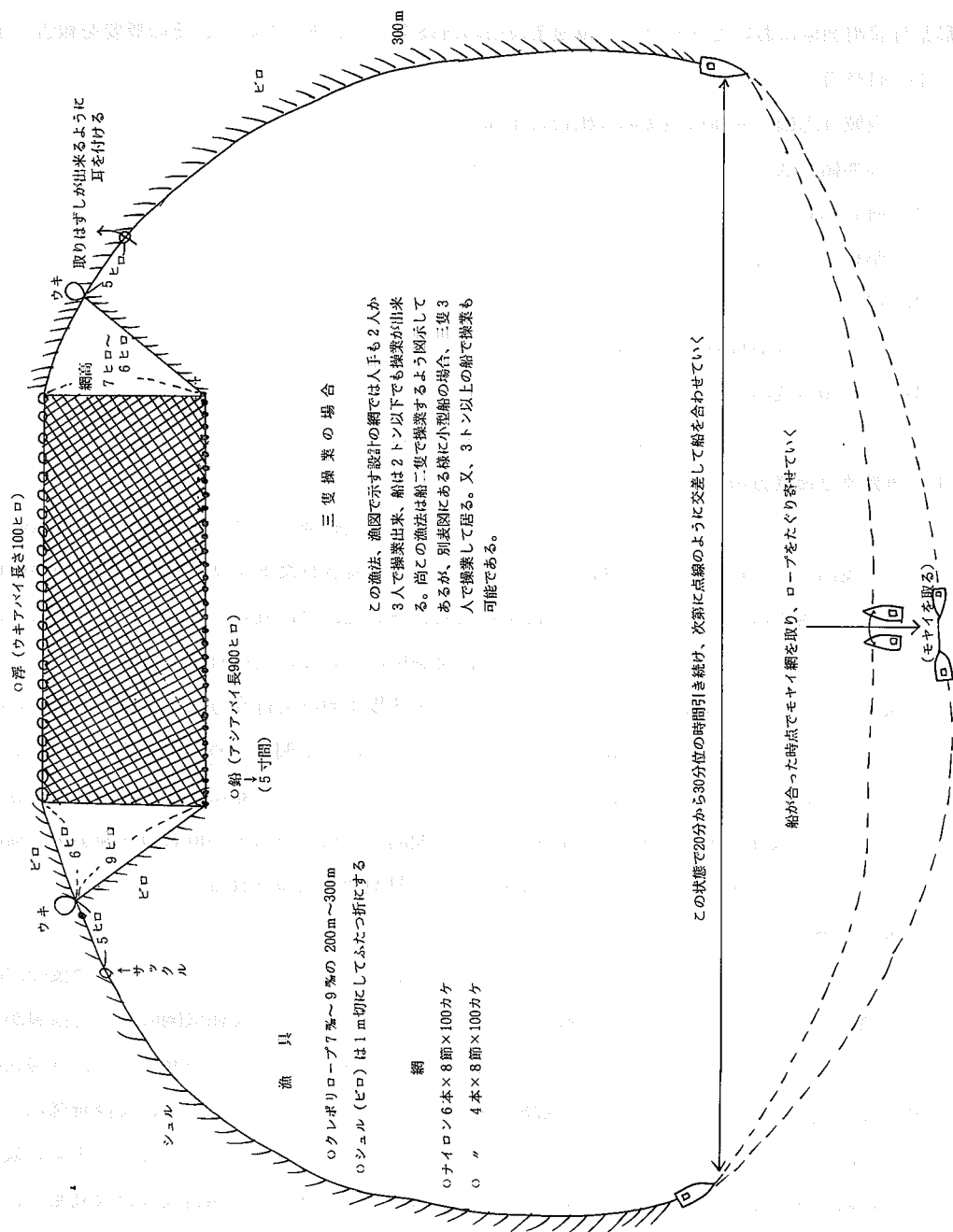
1. 漁具及び操業方法

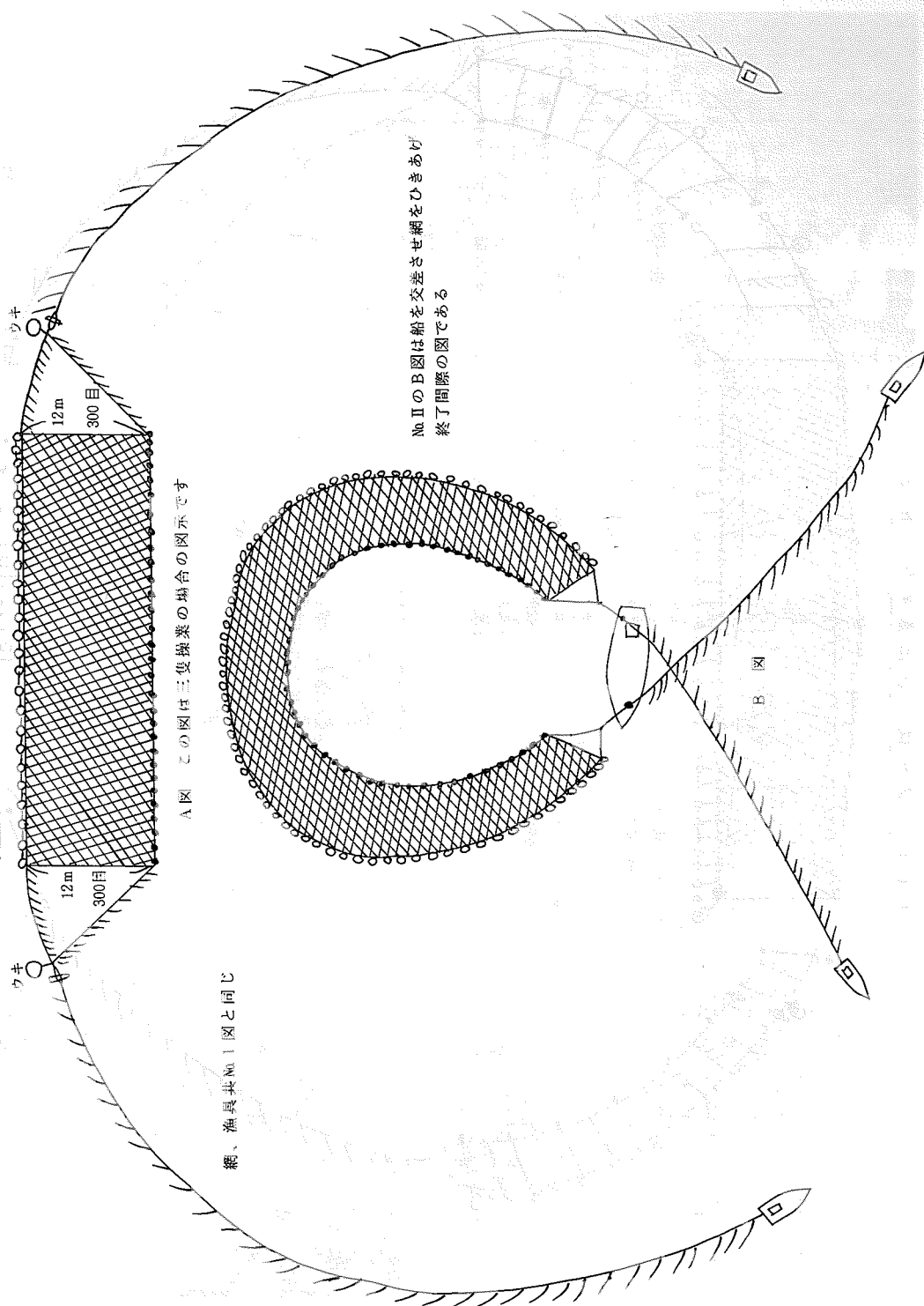
到着後2日間は与論町漁協組合長（平田敏秀）より漁民研修センターにおいて与論方式のトビロープ曳漁具漁法についての説明を受けるとともに、入荷されたトビウオ等のセリ及び出荷状況についての視察研修を行なった。3日目から茂丸、酒匂丸、全吉丸の3隻にそれぞれ乗船し、漁具の投入から網を交差させひき上げるまでの作業過程についての実技研修を受ける。

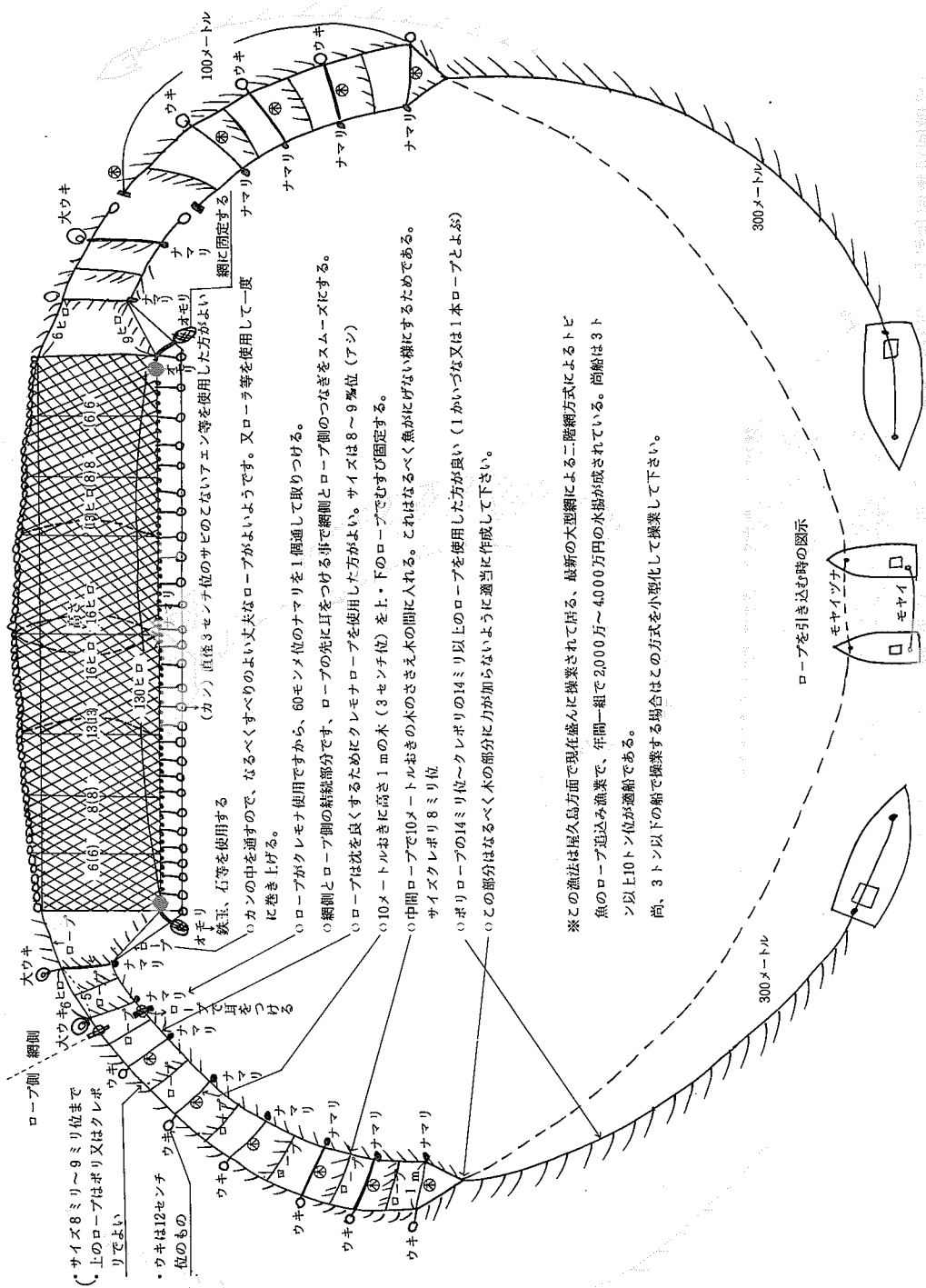
操業方法については図-2に示されるように、(1)3隻1組みで行う方法で主船（網船）の酒匂丸で網を投入し、約30分位で他の2隻で円をえがくようにして網をしめて行く(2)300m位のおどしロープをはずし、他の2隻はおどしロープをたぐりよせた後に主船に乗り一緒に網を引き上げる。このような作業を1日8回～10回行う。研修期間中1日200kg～300kgの水揚げがあり帰港した後はただちに計量されコンテナで水永で鹿児島県漁連へ出荷される。

2. 所 感

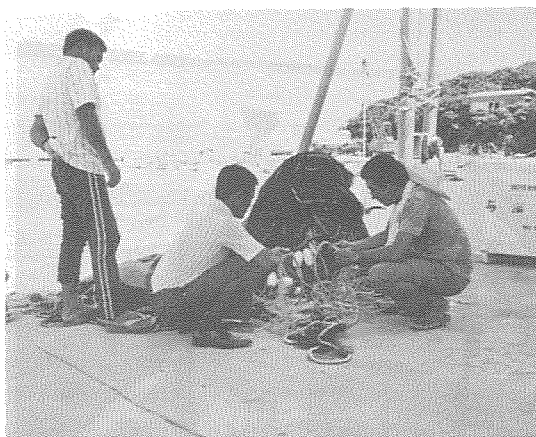
今回のトビロープ曳漁業技術研修に漁協青年部代表として参加させていただき、今後の沖縄市漁協発展のためにも知識と技術を身につけることが出来たことは、関係機関の助言と指導があったからだと思います。研修最後の夜は、実技研修で水揚げされたトビウオをサシミに、与論式の盃酒をくみ交しながら夜のふけるまで親睦を深かめることができましたことは、実技研修以上に与論の漁師との心のふれあいができたことで大きな収穫ではなかったかと思っております。最後に今回の研修を世話して下さった、漁業者センター及び与論町漁業協同組合長及び茂丸船主、竹内茂雄氏、酒匂丸船主酒匂徳蔵氏、全吉丸船主、山下全吉氏に対し心から感謝申し上げます。



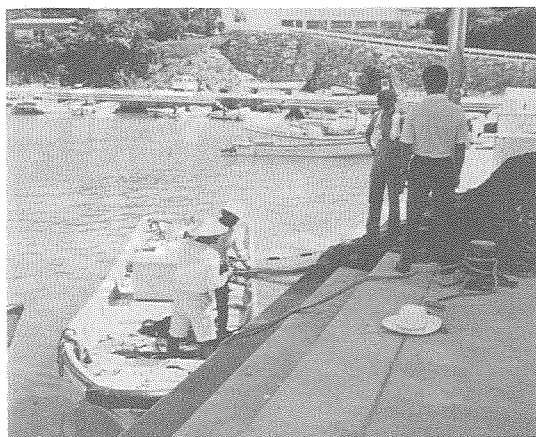
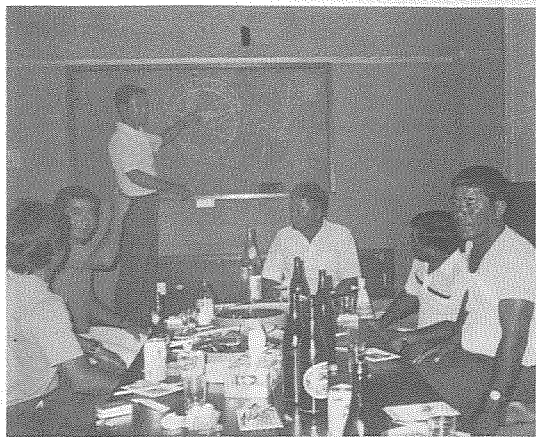




〔乗船研修スナップ〕



① 二隻及び三隻式と漁具の構造について説明する漁協長



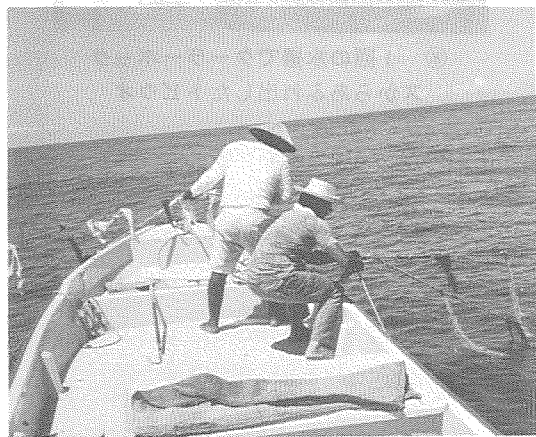
② 出航準備（漁具の積み込み）



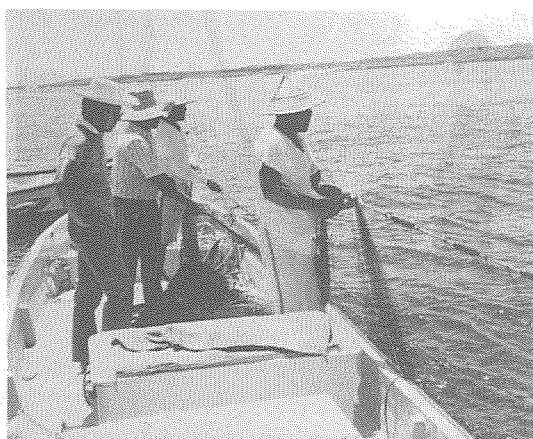
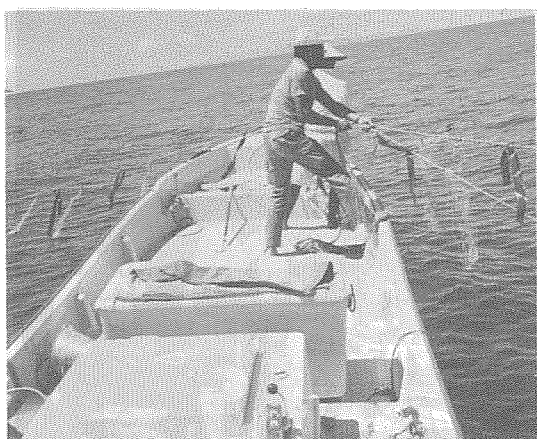
③ 与論町漁協を後にイザ出発



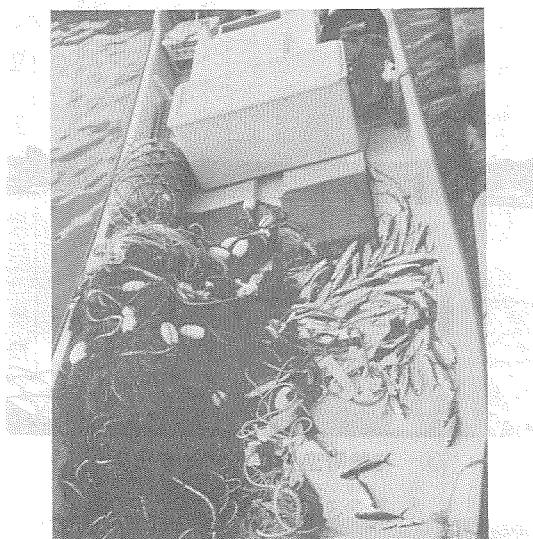
④ 投入前に網とおとしロープをつなぐ研修生の金城さん



⑤ 投入後網をたぐりよせるために網とおとしロープをはずしている研修生の与那嶺さん

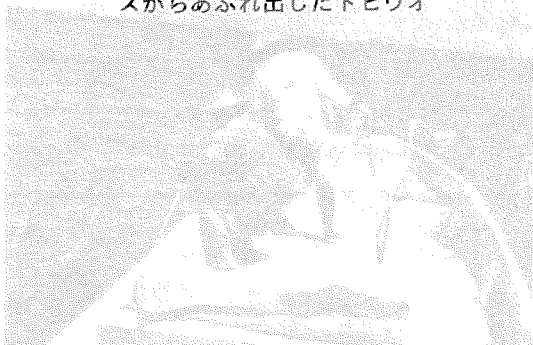


⑥ 網をたぐりよせる ⑦ 網がしぼり込まれてソロソロ「トビウオ」が？



⑨ 早朝の荷捌場での水揚げ風景

⑧ 1回の水揚げでクーラーボックスからあふれ出したトビウオ



⑩ 水揚げされたトビウオはコンテナで鹿児島県漁連へ出荷される

トビウオの漁獲量は、毎年約100トンと推定されている。このうち、約80トンが鹿児島県漁連へ出荷され、残りの20トンが地元で消費される。